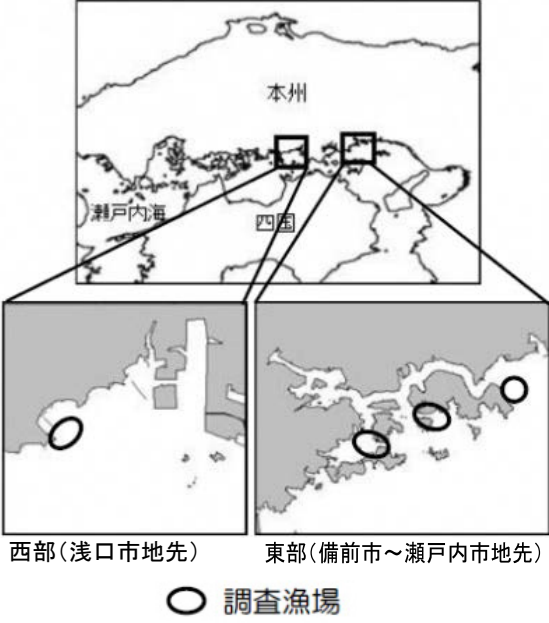


【4-5】

|                          |   |
|--------------------------|---|
| 湾・灘の区分                   | 播磨灘・備讃瀬戸  |
| 取組の名称                    | 海域環境と漁業生産量及び二枚貝の生産量の関係解析  |
| 事業期間及び事業費                | 事業期間： H29～31<br>事業費： 1,700～1,624 千円   |
| 事業体制                     | 【カキ養殖状況の把握等】<br>岡山県農林水産部水産課<br>【調査主体】<br>岡山県農林水産総合センター水産研究所<br>【サンプリング協力】<br>県下関係漁協   |
| 事業の背景・目的                 | 海域の栄養塩(岡山では硝酸塩などの窒素)が不足し漁業生産量が減少した可能性が指摘されている   |
| 事業場所の詳細                  | 岡山県東部(備前市～瀬戸内市地先)、西部(浅口市地先)海域<br><br>○ 調査漁場<br>図 調査対象のカキ養殖場の位置   |
| 事業内容                     | 栄養塩データと植物プランクトン及び漁業生産量との関係解析、栄養塩環境の異なる海域での二枚貝類の成育状況比較を行った。  |
| モニタリング方法<br>(効果・影響の確認方法) | ○調査項目<br>栄養塩濃度(TN、DIN等)、クロロフィルa濃度、カキ生育状況<br>○調査時期・頻度<br>・水質調査: 月2回(周年)<br>・カキ生育状況調査月1回(5月～翌年2月)<br>○調査場所<br>カキ養殖漁場(図 調査対象のカキ養殖場の位置 参照)<br>○調査地点数<br>4点<br>○モニタリング方法<br>対象漁場の関係漁協が定期的な採水及びカキ垂下連の管理・回収を行い、県は水質調査及びカキの生育状況調査を実施している。 |

|                            |  |
|----------------------------|--|
| <p>取組による効果・影響及びその判断基準等</p> | <p>県東部*のカキ漁場では、西部*に比べ窒素不足の傾向が見られ、窒素の増加で植物プランクトンやカキの成育が向上する可能性が考えられた。また、西部では東部より植物プランクトン量が多く、カキの成育が良い傾向が見られた。</p> <p>※東部:備前市～瀬戸内市地先、西部:浅口市地先</p> <div data-bbox="564 376 1267 875" data-label="Image"> </div> <p>図 栄養塩環境の異なる海域での二枚貝類の成育状況比較</p> |
| <p>モニタリング結果に対する見解</p>      | <p>マガキの成長が良好な漁場ほど植物プランクトン量が多い傾向がみられ、不良漁場では DIN 不足の傾向がみられた。県下マガキ養殖漁場では、漁場間における成長の違いがあり、不良漁場の餌量環境改善策の一つとして、栄養塩(DIN)の添加による TN 濃度の上昇を試みる必要があると考えられた。</p>   |
| <p>モニタリング結果の分析及び活用方法</p>   | <p>カキの生育状況結果については、関係漁協参集の協議会又は個別に報告している。</p>   |
| <p>関係機関等における連携・情報共有の方法</p> | <p>関係機関間で養殖状況のやりとりを通じて、情報共有を図っている。</p>   |
| <p>現状での課題</p>              | <p>海域の栄養塩が減少し、ノリの色落ち被害等が発生している。海域の栄養塩を増加させるための手段が下水道の管理運転等に限られ、それらも環境規制等により容易に取り組めない。</p>  |
| <p>今後の予定等</p>              | <p>解析を進めるとともに、岡山市で開始された下水道の管理運転について、その効果を調査し、県内他地区での導入を検討する。</p>   |
| <p>取組事例についての発表資料等</p>      | <p>第 27 回瀬戸内海研究フォーラム in 広島<br/>瀬戸内海環境保全小委員会</p>  |
| <p>情報提供元</p>               | <p>岡山県環境文化部環境管理課</p>   |